



報道関係者各位

～発達障害のこと、周囲にどれだけ伝えていきますか？～

親・恋人には9割、親友には7割、友人・知人には4割

障害者の就労支援を中心にソーシャルビジネスを展開する株式会社ゼネラルパートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：進藤均）は、発達障害のある当事者92名を対象に、「障害のカミングアウト」に関するアンケート調査を実施しました。2016年5月、障害への理解や支援の促進などを目的とした発達障害者支援法が改正されるなど、発達障害に対する社会的な認知は徐々に進み始めています。それに伴い、当事者にとっても、自身に発達障害があることを周囲へ伝えやすくなってきているものと思われます。今回の調査では、親だけでなく恋人や親友にも7～9割の人が発達障害であることをカミングアウトしていることが分かりました。また、カミングアウト後の関係も「良くなった」「伝える前と変わらない」という回答が約9割を占めています。一方で、友人・知人など、より身近でない存在に対しては、発達障害であることを伝えている人は約4割であり、「伝えても理解してくれないと思う」という不安の気持ちが強いことも分かりました。

調査結果

対象：発達障害者92名

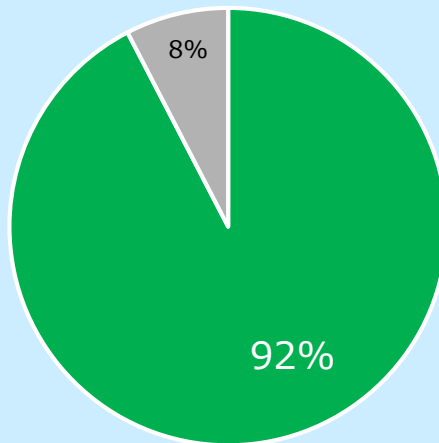
調査期間：2017年9月14日～2017年9月20日

調査方法：インターネット

		親	恋人	親友	知人
発達障害であることを	伝えている	92%	90%	68%	45%
	伝えていない	8%	10%	32%	55%
伝えた後の関係性は	良くなった	30%	25%		20%
	伝える前と変わらない	60%	70%		66%
	悪くなった	10%	5%		14%
伝えた後の関わりは	障害を理解してくれている	64%	68%		60%
	障害を理解してくれていない	36%	32%		40%
伝えていない理由の1位は		伝えても理解してくれないと思うから			

《 親へのカミングアウト 》

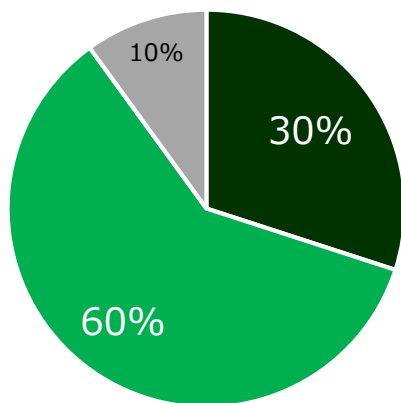
● 親に発達障害であることを伝えてありますか？



- 伝えている (すでに知っていた場合も含む)
- 今も伝えておらず、今後も伝える予定はない

《 伝えている方 》

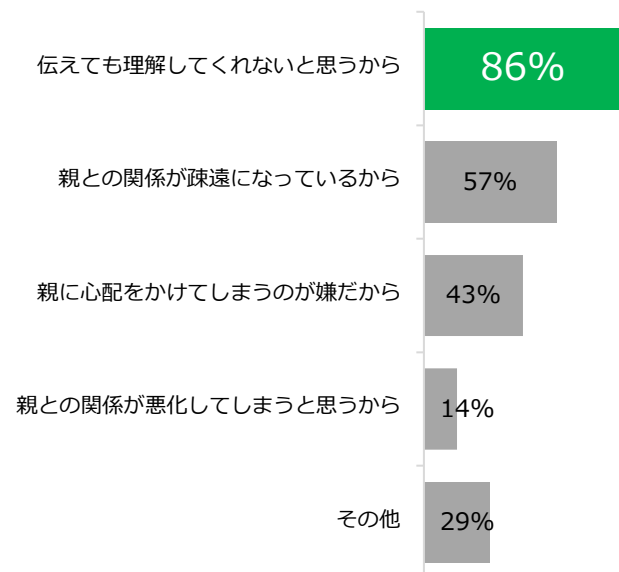
● 伝えた結果、親との関係性はどうなりましたか？



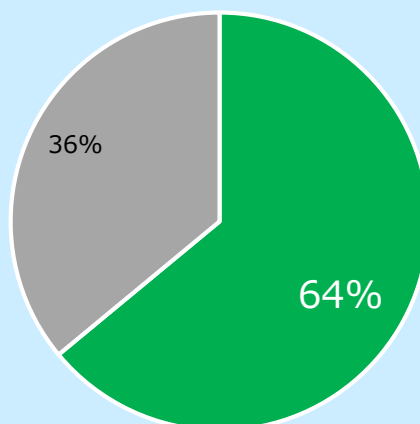
- 良くなった
- 伝える前と変わらない
- 悪くなった

《 伝えていない方 》

● 伝えていない理由は何ですか？



●発達障害であることを伝えた後、相手の関わりはどちらに近いですか？



- 障害を理解してくれていると感じる
- 障害を理解してくれていないと感じる

《フリーワード》

《障害を理解してくれていると感じる》

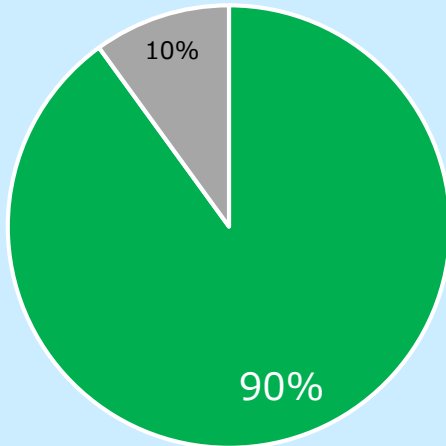
- 仕事ができないことに対して、厳しいことをあまり言わなくなったからです(40代/女性)
- 就職活動のことを言われなくなった(20代/女性)
- 自分のペースを尊重してくれるようになった(20代/男性)
- 暑さに弱い感覚過敏に理解を示し、クーラーを積極的に使わせてくれるようになった。できないことは強要しないようにサポートしてくれる(30代/男性)
- 障がいについて勉強し、いろいろ配慮などしてくれるようになった(20代/男性)
- テレビや新聞などで発達障害について取り上げられていると、積極的に見てくれている(40代/男性)
- 発達障害などに関する書籍やTVなどを見たり、読んだりしてくれるようになった(50代/女性)
- 今まででは単なる不注意や性格の問題と捉えられていたが、診断後はそれが障害であることを理解し、接し方もそれに応じたものになってきていると感じる(30代/男性)
- 伝える前と後で、良い意味で態度を変えることがなかったから(40代/男性)

《障害を理解してくれていないと感じる》

- 「自分の障害は他の人（知的、自閉症当事者）と比べると軽い」と言われるなど、軽視されている(30代/男性)
- 「自分たちは障害者だと思ってない。あなたはただ変わっているだけだ。」と言われた(20代/男性)
- 知らなかったときと同様に、あなたのわがままでと言われる(20代/女性)
- 宇宙人を生んだ覚えはないと言われている(30代/女性)
- 障害を伝えた際、「仕事を辞めたくて適当な病気をでっち上げている」「そんなに働きたくなかったのか」などと言われた。こちらも感情的になり、親が泣くまで罵ってしまい、それ以後、険悪な関係となった(30代/男性)
- 障がいがあることを恥だと感じているため(40代/男性)
- 私に対して、親の考える「普通」という価値観の押し付けがあり、私の「ありのまま」や「個性」を受け入れてくれない感じがします(30代/女性)
- 健常者には簡単なことでもアスペルガーには難しいことを理解してもらえない(30代/男性)
- 発達障害に関するテレビ番組や本を借りてきて読んでもらうようお願いしましたが、全く見ようともしようとせず、サポートが必要なときも全くサポートしてくれません。今後も理解してくれそうにないので、とくに希望は捨ててます(40代/女性)
- 私が発達障害だと言っても、母親は「あんたはちがう。統合失調症や」といつも二次障害のことを言われます(30代/男性)

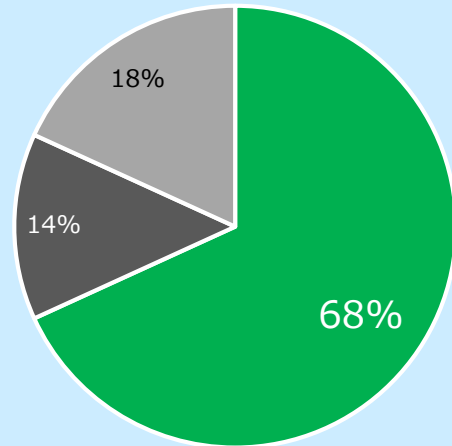
《 恋人・親友へのカミングアウト 》

● 恋人に発達障害であることを伝えてありますか？



- 伝えている
- 今も伝えておらず、今後も伝える予定はない

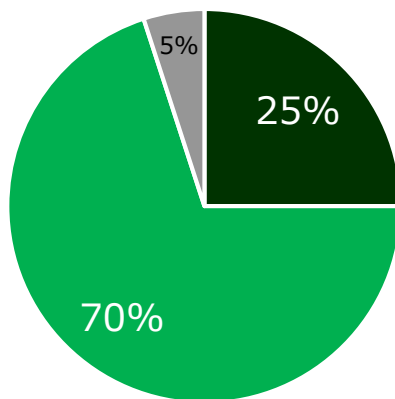
● 親友に発達障害であることを伝えてありますか？



- 伝えている
- 今は伝えていないが、今後伝えたい
- 今も伝えておらず、今後も伝える予定はない

《伝えている方》

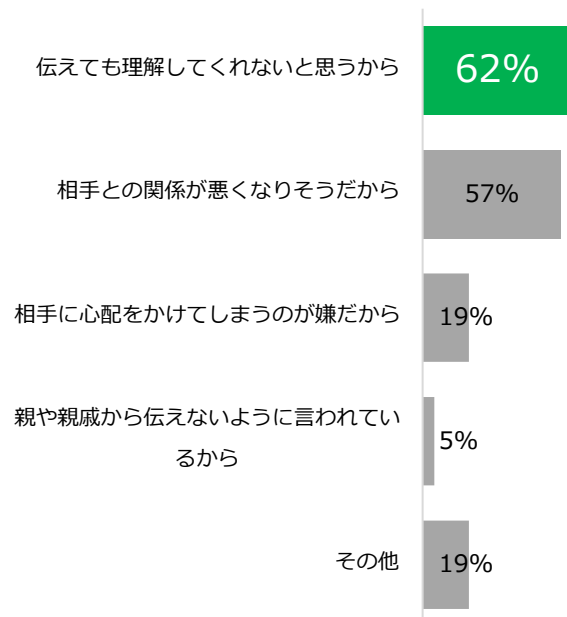
● 伝えた結果、恋人・親友との関係性はどうなりましたか



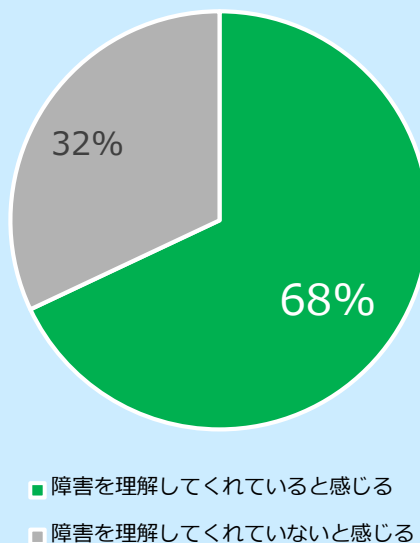
- 良くなった
- 伝える前と変わらない
- 悪くなった

《伝えていない方》

● 伝えていない理由は何ですか？



●発達障害であることを伝えた後、相手の関わりはどちらに近いですか？



《フリーワード》

《障害を理解してくれていると感じる》

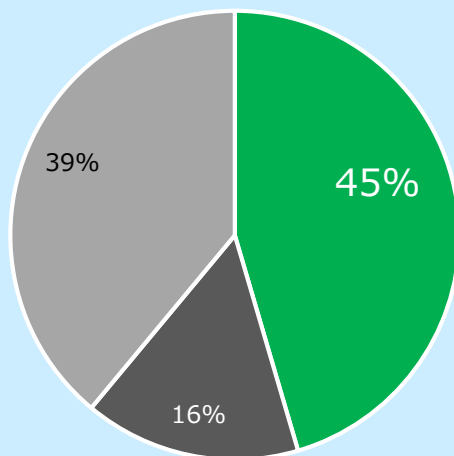
- 興味がある分野を異常に掘り下げる特性があるが、物知りなところが魅力と言われる(40代/男性)
- 「キミの変なところが、やっと理由があることが分かって逆に安心した」と言われた(30代/男性)
- 苦手なことをよく協力してくれるから(20代/女性)
- 障害の特性を把握しようとし、その状態を改善する手助けをしてくれている(20代/女性)
- コミュニケーションの面で、配慮してもらえるようになった(30代/男性)
- 以前と全く変化なく接してくれている(30代/男性)
- ありのままを以前と変わらず受け入れてくれている(40代/男性)
- 障害の特性について、細かいことを気にしない(20代/女性)
- 特性について寛容だから(20代/女性)
- 発達障害に関する書籍などで情報を集めて、実際に配慮してくれている(20代/男性)
- 恋人が広汎性発達障害で当事者同士ということもあり、障害の理解はしてもらえていると感じる。親友は障害に対しての理解は感じないが、今までと何も変わらない付き合いを続けてくれているのが、ありがたく感じる(30代/男性)
- 恋人とは大人の発達障害の当事者会で知り合ったので、伝える前後で変化はない。もともと理解度は高かったが、付き合いようになってからさらに上がった(30代/男性)

《障害を理解してくれていないと感じる》

- できない部分について「努力が足りない」だの、どれだけ説明しても、健常者と同じような行動を求められるから(40代/男性)
- 障害は自分で克服するものだと言いつけられた。私は、周囲の協力も必要だと感じているので、温度差があるように思える(30代/男性)
- 発達障害の特性を何度伝えても、配慮が無い言動や行動が多いように感じる(50代/女性)
- それまで個性的な人物として見られていたものが、障害者と分かった途端、接し方が素っ気なくなったり、連絡しても返信が来なくなるなど、親しいと思っていた人々が静かに離れていくのが目に見えて分かりました。アスペルガーや発達障害という単語が一人歩きし、ネガティブなイメージで語られることが多い中、健常者との間に相容れない壁があることを実感しました(30代/男性)

《 友人・知人へのカミングアウト 》

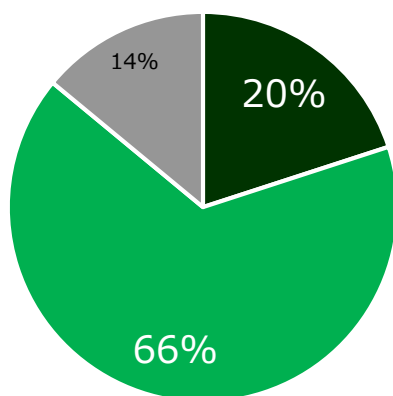
● 親友以外の友人・知人へ発達障害であることを伝えてありますか？



- 伝えている
- 今は伝えていないが、今後伝えたい
- 今も伝えておらず、今後も伝える予定はない

《 伝えている方 》

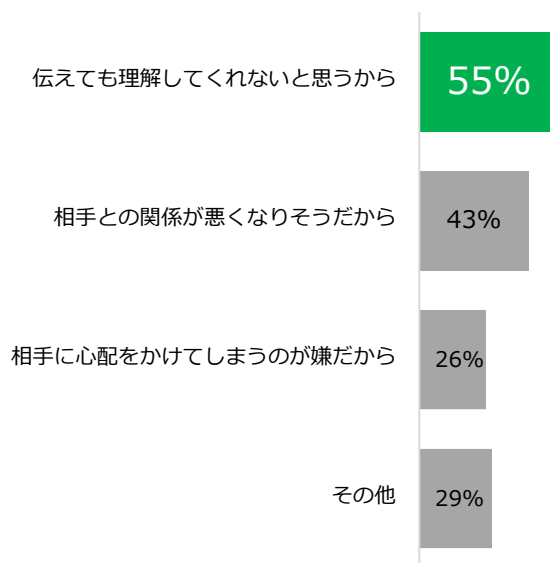
● 伝えた結果、友人・知人との関係性はどうなりましたか



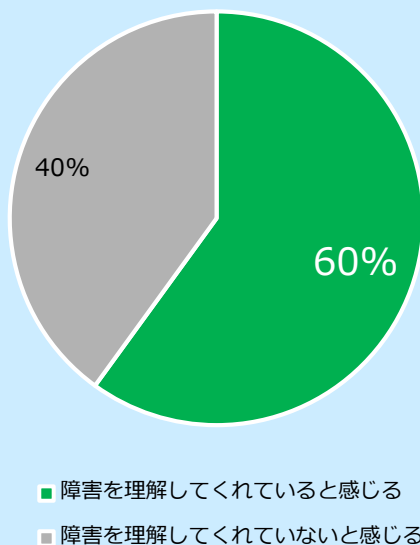
- 良くなった
- 伝える前と変わらない
- 悪くなった

《 伝えていない方 》

● 伝えていない理由は何ですか？



●発達障害であることを伝えた後、相手の関わりはどちらに近いですか？



《フリーワード》

《障害を理解してくれていると感じる》

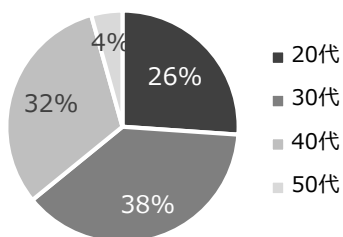
- ある程度ズレた回答をした時に察してくれていると思う(20代/男性)
- それまでの関係を変えずに普通に接してくれている(20代/男性)
- 概ね伝える前と変わらず付き合っているが、中には障害を理解していない人や、知的障害と混同して私の障害に疑問を持っている人もいる(30代/男性)

《障害を理解してくれていないと感じる》

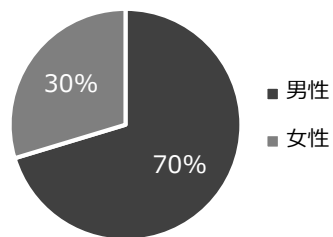
- 障害をめんどくさいものと捉えられ、疎遠になってしまった(20代/女性)
- ほとんどの人に「へえ大変だね」と言われ、「どこが障がい？」と聞かれる。世間の情報をもとに漠然とした大変さは感じてくれているが、見た目では分からないので、理解はあまり無い(30代/男性)

《アンケート回答者の概要》

年代



男女比



<障がい者総合研究所 所長 中山伸大からのコメント>



2005年に施行された発達障害者支援法が2016年に改正されるなど、ここ10年ほどの間に、発達障害に対する社会的な認知は大きく進んでいます。そこで、障がい者総合研究所では、発達障害の当事者に対して、自身の障害を周囲にカミングアウトしているかについて調査を実施しました。

その結果、親や恋人に対して、自身に発達障害があることを伝えている人は90%を超え、ほとんどが伝えていることが分かりました。同様に、親友に対しては68%、知人に対しては45%という結果になり、関係性のより深い相手に障害をカミングアウトしていることがうかがえます。

カミングアウト後の相手との関係性については、いずれも「良くなった」「伝える前と変わらない」と回答した人が9割前後となっており、障害があることを伝えたことによって関係性が悪化した人は少ないようです。一方で、障害への理解に対しては、いずれも3~4割が「障害を理解してくれていないと感じる」と回答しており、伝えることが必ずしも理解につながっていないことが分かりました。理解してくれていないと感じる理由として、「できない要因を努力不足とされる」「ありのままを受け入れてもらえない」「『どこが障がい?』と聞かれる」といった声が挙がっており、発達障害の認知は広がってきましたが、本質的な理解という点では課題があるものと思われまます。

※本調査結果の引用の際は、「株式会社ゼネラルパートナーズ 障がい者総合研究所調べ」とクレジットを明記ください

«株式会社ゼネラルパートナーズについて»

障害者専門の人材紹介会社として2003年4月に創業。その後「就職・転職サイト」「障害別の教育・研修事業」「農業生産事業」など、幅広い事業を展開している。2016年には障害者アスリート、2017年には難病者の支援も開始するなど、その対象も大きく広がっており、これまで就職や転職を実現した人の数は5,000人以上。障害者をはじめ、不登校、ひきこもり、LGBTなど様々な不自由を抱える方々が、『自分らしくワクワクする人生』を実現できることを目指し、事業を拡大している。

会社名 : 株式会社ゼネラルパートナーズ
代表者 : 代表取締役社長 進藤均
URL : <http://www.generalpartners.co.jp/>

本社所在地 : 〒104-0031 東京都中央区京橋 2-4-12 京橋第一生命ビル 3F
業務内容 : 障害者専門の人材紹介事業、求人情報事業、教育・研修事業、農業生産事業、調査・研究機関 など

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社ゼネラルパートナーズ 広報担当 : 田島

TEL:03-3270-5573

FAX:03-3270-6600

Mail:media-pr@generalpartners.co.jp

